

# 令和 5 年度 1 ブロック研究発表会記録

大阪市立港南中学校 川勝 純

1 ブロックでは、「実際の指導につながる内容を学びたい」、「実践的なものを共有したい」という声が多かったので、港南の 1 年生に現在在籍している視覚障がいのある生徒の実践について、港南から Teams 配信で研修を実施しました。

研修では、川勝から、視覚障がいに関する基礎的な知識、歩行や点字等について中心にお伝えしました。また、受け入れるにあたっての環境面や職員の準備等も簡単にお伝えさせてもらいました。視覚障がいに限らず、他の障がい種別の生徒の受け入れにもいかせてもらえればと思います。

コロナ過もあり、Teams での開催でしたが、たくさんの先生方のご協力のおかげで実施することができました。

## 令和4年度 2ブロック研究発表会記録

大阪市立茨田北中学校 足立 拓真

実施日：令和4年9月2日(金) 15:00～17:00

会場：大阪市立都島中学校 各教室(5クラス×40名)でのオンライン配信(teams)

参加人数：170名程度

講師：大阪市キャリア教育支援センター 中上 益男 様

内容：「支援」が必要な生徒の就労への準備～企業経験者からの提言～

- ・企業が求める人材(1 基本的な態度や人柄 2 日常生活能力 3 職業生活能力)
- ・企業から学校、家庭への要望(1 成功体験の蓄積 2 就労意識 3 コミュニケーション能力)
- ・企業が大切にしていること

まとめ：オンライン配信のため、講師の先生の声が聞こえづらかった。

→講師の先生の前にクリアボードの設置、ヘッドホンマイクの使用で講話中でしたが、ナス句を外してもらい、声が聞こえるように対応しました。

事前準備の段階で、確認不足でした。

研究発表会にはたくさんの先生方に来て頂きました。専門委員では、各学校にオンライン配信でも良いのではないかという意見もありましたが、各校の特別支援で集まり、情報共有をする機会もないので、感染対策を行いながら今回のような形式での研究会となりました。最後にはグループディスカッションも行い、日々の悩みや苦労をいろいろな先生方と共有することができ、大変実りある研究会になりました。

## 令和4年度 3ブロック研究発表会記録

大阪市立大正中央中学校 村上 慎太郎

3ブロックでは「自立活動について詳しく知りたい」「自立活動について、自校での取り組みが正しいのかよく分からない」といった声をお聞きすることが多かったの  
で、教育委員会指導部インクルーシブ教育推進担当指導主事 安田加弥 様を講師に  
お招きして、大正中央中学校を会場として、集合研修を行いました。

本年度の3ブロックの研究主題が「子ども一人一人が、共に学びに向かい生きる力を  
育む教育をめざして」であり、今年度は疑問の声の多かった「障がいのある子どもの学  
びの充実～自立活動の指導について～」のご講演をして頂きました。

研修の中では、指導主事ご本人が小学校教諭時代に関わった生徒とのやりとりの中で  
感じた難しさ、自立に向けた様々な自立活動の計画や、その成果についてのお話があり  
ました。自立活動について、先生方の理解がより深まった時間であったと感じます。

また、ご来校頂いた先生方におかれましても、研修会前後における時間に活発な意見  
の交流をされている姿が見られ、同ブロック内における先生方同士の繋がり広がりを  
感じることができました。

コロナの影響でここ数年は、このような集合研修を行うことは困難で、本年度も開  
催にあたり、細心の注意を払って行われましたが、改めて有意義な時間であったと思  
います。

## 第4教育ブロック研究発表会について

特別支援教育部 第4教育ブロック 専門委員長

大阪市立巽中学校 松田裕貴

令和4年9月2日（金）に、大阪市立矢田西中学校を会場として、第4教育ブロックの研究発表会とブロックの担任者会を行いました。コロナ禍での開催ということもあり、会場での参加を各校1名のみとし、各校に向けてTeamsでの配信も行うハイブリッド開催の形式で行いました。研究発表会について、今年度は「確かな生徒理解のために ～検査結果の正しい理解と活用～」という研究主題のもと、大阪府立東住吉支援学校の地域支援の一環として同校より講師を招き、「WISC」の検査結果をもとに生徒理解を深め、検査結果から効果的な支援を考えていく方法についてご講演いただきました。ご講演では、「障がい者手帳の種類や取得までの流れ」についてや、「WISC 検査の結果の読み取り方」といった基礎的な内容と、検査結果をパターン化して各パターンに応じた具体的な支援例の提示など、実践につなげやすい内容のお話を伺うことができました。ご講演の後は、Teams参加の先生方を含めて質疑応答を行いました。

検査結果という客観的なデータを利用して支援を考えるという内容でしたので、通常学級の先生方にも分かりやすい内容であったと感じました。

また、年度末研修報告会における4ブロックの発表として、この研究発表会での内容を取り上げ、他ブロックの先生方にもシェアをしました。今後、検査結果の活用が活発になり、エビデンスに基づいた支援につながれば幸いです。